

(別紙2 - 1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 12 月 27 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4 2 7 0 2 0 2 4 6 0		
法人名	医療法人社団 平世会		
事業所名	グループホームひろた		
所在地	長崎県佐世保市広田 1 丁目 4 番 7 号		
自己評価作成日	平成 23 年 11 月 28 日	評価結果市町受理日	平成 24 年 1 月 18 日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-801 長崎県島原市高島 2 丁目 7217 島原商工会議所 1 階
訪問調査日	平成 23 年 12 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none">・「感謝の心を忘れずにやさしい手、確かな手で共に歩みます。」を常に念頭に置きながら業務にあたっています・学生や実習生、ボランティア等の受け入れが多く、指導すると同時に改めて自分たちの介護に対する姿勢を見つめ直す絶好の機会となっています。・スタッフ間の信頼関係に基づくチームケアを常に心がけており、また併設の事業所及びスタッフとの連携協力を得ながら、入居者様の思いや願いの実現に向け入居者目線のサービスを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体とした当事業所は、医療はもとより併設されたデイサービスや他施設とスムーズな連携が出来ており、利用者が安心して生活を送る体制作りがされている。学生の実習体験、ボランティアの受け入れや東部9施設ブロック会に置いての情報共有、介護に関する講演、研修開催など、積極的に活動され地域に密着した事業所である。さらに利用者の目線においてサービス提供を目指し「おもてなしプロジェクト」を立ち上げ、エコ物品班・接遇班・環境班に分かれ、職員同士のチームワークで質の高い支援を志向し続ける事業所である。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「感謝の気持ちを忘れずにやさしい手と確かな手で共に歩みます。」の理念を職員全員が理解し共有した上で、入居者様の目線で、そして思いに心を寄せて努力している。</p>	<p>開設当時からの理念の基、年毎の変化に伴い、全職員が理解し実践されている。全体理念を基に今年度の目標として個人目標を作成され実践につなげている。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治会や老人会の集會に出席したり、逆にホームの行事に地域の方に参加して頂き交流をしている。職員もホーム内外での挨拶に心がけている。</p>	<p>大学の研修受け入れ、中学生の体験学習を通して、利用者と学生の交流継続、事業所より出向き介護予防や認知症サポーターの講演も積極的である。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>介護教室開催の他に地域の中学、高校、大学からの実習や介護体験、ボランティアの受け入れや、併設事業所と連携して、老人会へ出向き認知症予防の活動も行っている。</p>	/	/
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ホームの普段の生活の様子を報告する他、ヒヤリハットや事故報告書から得た安全対策等に対しても意見を頂きサービス向上に反映させている。</p>	<p>利用者家族に運営推進会議の案内は送付されている。活動状況や経過報告を行い、貴重な意見を頂き次に向けてサービスに繋げる取組みをされている。</p>	
5	4	<p>市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>管理者が主となり必要に応じて行政との調整を図っている。また運営推進会議においても行政に対する情報発信の場でもあり協力、理解を頂けるよう働きかけている。</p>	<p>高齢者支援センターの関わりで地域の状況把握など、東部グループホームの連絡網があり情報を共有され協力関係を築いている。</p>	

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>ミーティングや会議で、例えばスピーチロックではなかったか、など自分たちのケアを振り返るようにしている。</p>	<p>利用者、家族と常に対策を話し合い同意を得て、利用者の身体状況や動線を考慮し想いを尊重している。また、行動の制限に繋がらない支援をされている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>市が発行する虐待に関するマニュアルを通して職員が関心を持ち理解するよう努めている。普段のミーティングでも自分たちのケアを意識して確認するよう心掛けている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>3Fユニットに対象者もおり制度の認識はしているが、実用面での理解は未だに乏しい面もある。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者や家族の立場に立ち、時間をかけ判り易く説明して理解を頂けるよう努めている。また改定時は予め電話連絡を取り、後日個別に対応をして文書にて同意を得ている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関には意見箱を設置している他、運営推進会議の委員からの意見をサービスに反映させている。家族からも意見を言い易いように普段からのコミュニケーションを大切にしている。</p>	<p>利用者家族の面会時や電話等で職員の積極的な問いかけに意見交換できる関係作りがなされている。また、フロアー会議で全職員が情報を共有されケアに反映させている。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議以外でも日常的に管理者とは意見交換ができ、柔軟に対応してもらっている。代表者には管理者が適宜現場の状況を伝達する他、職員も随時意見を述べられる環境である。</p>	<p>状況により職員の異動はあるが、各部署での連携を大切にされている。職員の提案により休憩時間を考慮され昼食を一緒にとる事で意見等が出やすい環境を作られた。</p>	

12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の家庭に支障をきたすこのないよう現場の声を聞き入れ配慮されている。必要に応じて個別に相談もしやすい関係作りにも普段から努められている。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内だけではなく外部研修にも積極的に参加の機会を与えてもらっている。その内容等も全職員が共有できるように報告書の閲覧や職員会議の場で伝達している。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市GH連絡協議会の東部ブロックに所属する施設同士での自主研修会が今年度より活動を始め、職員の交流、相互理解につながり、サービスにも反映される良い機会となっている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>担当のケアマネジャーから情報を得ながら、本人と家族と面談をする中で、その思いに耳を傾けながら、客観的な視点をもって少しでも不安感が解消できるよう努めている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居に至るまでの経緯を十分理解するように努め、来訪時は日常の様子を家族に伝えながら、逆に家族からの意見や要望を気軽に伝えて頂けるような関係作りには留意している。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>日常より本人やご家族とのコミュニケーションを意識的に図り、ミーティング等を通して柔軟な対応をも配慮しながら現状に合ったサービス提供につなげている。</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>人格を尊重し、感謝の念を持って協同の関係を築いている。普段の様子や会話、しぐさ、表情等を通して少しでもその方の思いに近づけるよう努力している。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族との情報の共有を意識した関わりを大事にしている。来訪時や広報誌、行事の案内、運営推進会議の出席依頼など随時連絡を取っている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうち、支援に努めている</p>	<p>帰省の日帰りやドライブに家族も同伴されたり、また併設のデイの利用者との交流や地域の方々による演芸ボランティアを楽しむなど、なじみの関係作りを大切にしている。</p>	<p>入居前のデイサービスで馴染みの関係が出来ており交流支援をされている。高齢化に伴い身体状況に応じて家族の理解、協力を得て外出支援もされている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>お一人おひとりの時間を大切にしながらも、孤立されることのないように入居者同士の関係性も職員間で情報を共有し、意識的に会話をする時間を持つように心がけている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約が終了される場合も必要に応じてホームの機能、母体医院との連携、併設事業所とも協力した支援体制で関係性を保つ努力をしている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>「入居者の思いや願いの実現に向け支援していく」の目標をもとに「入居者の願い箱」を設置した。会話の中で知り得たことをメモに書き留め、その実現に向け取り組んでいる。</p>	<p>職員の担当制が取られており日々のかかわりの中、利用者の思いを言葉や表現から汲み取り、家族からの情報も頂きながら本人の立場に立って実行されている。</p>	

24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>事前に関係機関から情報を得る他、訪問面談時の本人と家族からこれまでの経緯を伺い、職員間で情報を共有しサービスの反映に努めている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>業務日誌に個別の日々の様子や必要事項を記載し、就業時と申し送り時に職員間で現状を把握し、情報を共有し合うことで、その日の状態に応じたサービス提供につなげている。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>事前検討用紙に職員の意見を収集し、本人と家族の意向の確認、アセスメントを経てカンファを行う。本人目線と客観的事実や情報と照らしながら個々の生活に反映したプランを作成している。</p>	<p>利用者担当制を取っており、支援計画の実践状況は詳細に記録されている。また、職員が問題点や課題点を含め事前検討用紙を基に、個々の現状に即した介護計画作成に活かしている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>業務日誌以外に、ケアプランチェック表や個人記録に日々の生活の様子等を記載し、これらを通して伝達・共有しながら、ケアの評価や見直しを行っている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>入居者の高齢化、介護の重度化も背景にあるが、当ホームは開設当初より母体医院と併設事業所との連携体制が整っており、各事業所の機能を入居者の生活に日常的に反映されている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>巡回図書や訪問パン屋、地域の方々による演芸ボランティア、中学、高校、大学からの介護体験の受け入れや交流等、その関係は徐々に敷居が低くなってきたように感じる。</p>		

30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前からの主治医との連携を大切にしているが、入居と同時に殆どの方が母体医院を希望される。適切な医療を受けて頂けるよう、ホームと医療との連携を密にしている。</p>	<p>利用者の殆どが母体医院がかかりつけ医で、事業所の向側に月2回の受診に行かれている。事業所と医院との連携により適切な医療が受けられる取り組みを行っている。</p>	
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医院からは当日のGH担当看護師が配置され、申送りノートで情報を共有している。また当ホームの看護師の他に併設事業所の看護師の協力体制もあり連携支援が整っている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には病院関係者から経過や退院の見通しなどこまめに情報交換を行い、退院時の受け入れ態勢を早期に整えている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化された場合は院長、看護師長と職員が家族の意向を尊重しながら方針を共有して支援を行っていく。また、事業所として支援できることを家族に確実に伝えるようにしている。</p>	<p>重度化した場合における看取りの指針は作成されている。また、必要に応じて本人、家族、主治医と話し合いの場を持たれ、希望や状態に合った支援がなされている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署から心肺蘇生法の直接指導を受けたり、事故発生時に備え対応マニュアルの他、事例を通して学習しながら実践力を身に付けている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>法人全体の総合訓練とホーム独自の訓練を通して、毎回検証を繰り返しながら防災意識を高めている。地域へは管理者が出向き後方支援的な理解協力をお願いしている。</p>	<p>消防署の協力を得て年2回の消防訓練は行なわれ、備蓄もされている。管理者、職員は防災に対する意識も高く積極的に取り組まれている。</p>	<p>行政や警察と連携を図り、さらなる防災訓練の体制作りや整備など検討される事に期待したい。</p>

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であり個々の人格を大切に思い、判りやすく丁寧な声掛けや対応を心がけている。お一人お一人が安心して暮らせるよう、寄り添う時間を大切にしている。	利用者の生活歴、性格、職業など状況に応じて、適切な声かけを意識し、対応されている。また、職員は居室に入る際はタイミングに配慮されており接遇マナーの研修も行なっている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	うまく表現ができない方には表情から思いを読み取る努力をしている。日常の何気ない会話の中でも本人から思いを表出できるよう判り易く答え易い働きかけを心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	主役は入居者であることを念頭に、本人のペースに合わせてそれぞれの生活の場面において過ごして頂いている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気候や状況を踏まえ、本人の希望を尊重しながら衣類を選んでいる。行事や外出をする時は化粧などのおしゃれを促している。月2回の訪問理美容も利用できる。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は旬の食材を生かすのと入居者の希望を必ず聞いて作る。食事は準備から片付けまで、それぞれの出来ることを分担して互いに協力し合う関係が出来ていると思う。	利用者の出来る範囲で作業に参加され、職員の手作りの家庭料理の提供。1日、15日はお赤飯と散し寿司の献立により『花御膳』と称し、利用者の楽しみとなっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活チェック表でバイタル、食事摂取量、排泄に関する情報を日々把握している。医院の管理栄養士に随時アドバイスを受けている。		

42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後に歯磨きの声掛け誘導を行い、状態に応じて見守りや介助を行い清潔保持に努めている。治療を要する方は歯科往診を受けられる体制を整えている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>紙パンツ使用だが日中失敗がない人は、日中のみ布パンツに変更したり、チェック表をもとに適宜に誘導し自尿を促すなど、その方が負担とならない範囲で支援している。</p>	<p>職員は利用者一人一人の排泄パターンを把握し、さりげない寄り添いを通して声かけをされている。日頃から排泄のサインに気を配り支援をされている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘予防として確実に水分摂取や食事面では乳製品や食物繊維の多い献立の作成、日課として体操や軽運動を通して予防に努めている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴予定者には予め本人に意向を確認するが、もし敬遠されても時間をずらして入浴ができるよう体制を整えている。代替えとして手浴、足浴、清拭を実施している。</p>	<p>利用者の希望があれば毎日入浴可能であり、時にはデイサービスの浴場を借りる事もある。拒否傾向の利用者は代替の支援や、タイミングを見極めて個人に合わせた支援に心がけている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>自室以外に、思い思いに休息できるよう畳の間やソファーにのコーナーを設置している。体調を観ながら午睡や休憩を促すなどして夜間の安眠につなげている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬紙を服薬管理票や個人記録に挟め、処方の際は服薬管理票と照合して効能や副作用を把握して確認をする。服薬対応は安全確実に伝えるようマニュアルを元に統一している。</p>		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>生活歴や職歴、家族からの情報等をもとに本人の得意なものや趣味を活かせるように生活の場面の中で工夫している。月間行事も入居者と一緒に話し合いながら計画をしている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気が良い時は近隣の散歩やドライブに行くなど、入居者の意見や要望を職員で検討しながら買い物や外出支援を行っている。</p>	<p>利用者の高齢に伴い体調や天気を見て個別対応を行なっている。おやつを持って玄関でお茶したり、新聞折り込みの広告を見て利用者の要望により食事に出かけられている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物などの外出時には個人にお金を所持してもらい実際に商品を購入してもらっている。管理が困難な方は職員と一緒に買い物の楽しみを味わってもらっている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>直接受話器を持ってもらい相手との話が判りやすいように必要に応じて職員が補足することもある。手紙は本人と相談をしながら一緒に筆を持って書いてもらっている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室とフロアーに温度計を設置し、入居者に確認をしながら空調管理をしている。季節の花を生けたり壁面、習字等でも季節を感じてもらえるような演出を心がけている。</p>	<p>広く明るいリビングや廊下の壁面には、利用者の俳句を書かれた物や、実習生の感謝の手紙や、写真が掲示されている。テレビの音にも配慮され利用者はゆったりとした時間を楽しまれている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テレビを囲んでソファを設置したり、日当たりのよいエレベーターホールにはベンチと本棚を、畳の間には作業場も兼ねた和式テーブルを置くなど、それぞれが過ごしやすいよう配慮をしている。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭での愛用品や家具、思い出の写真などを居室に持ち込んで頂き、居心地良さを工夫している。持ち込み品が少ない方は同意を得た上でホームのリサイクル品を調達している。	利用者の大切にされていた写真や衣類が持ち込まれ、2階棟の居室入口は利用者、職員共同で作られた暖簾を掛けられ家庭的な雰囲気作りに努められている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室からフロアの各所にわたり、生活動線には個々の能力や状態に応じて判りやすさと安全を考慮した環境作りを心がけている。		
アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
62		利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない	

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3. たまに
		4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3. あまり増えていない
		4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップ に向けて期待 したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝夕の申し送り時に理念を唱えることで、各自が念頭に置きながら業務に取り組むことができている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事に地域の方を招いたり、近くの店の従業員と顔なじみになったり、また散歩をしていると地域の方と気軽に挨拶を交わせる関係が築けている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護体験で地域の中学生や高校生、大学生の実習を積極的に受け入れ、認知症の理解や支援の方法について学習して頂いている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では行政からのアドバイス、地域の代表や家族からのありがたい意見や厳しい意見、有識者からの客観的なコメントなどをサービス向上に活かしている。		
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者を通して市の担当者との連携を密にとり協力関係が築けている。そしてその内容や結果などはタイムリーに職員に伝えられている。		

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>具体的な行為に関しては研修に参加した職員の報告書や資料を基に全員が理解し、拘束につながる可能性が考えられる場合は、その都度ケアの見直しを行っている。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>市発行の虐待に関するマニュアルを通して職員が関心を持ち理解するよう努めている。普段のミーティングでも自分たちのケアを意識して確認するよう心掛けている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度については利用されている入居者がおられるため、後見人の方とのかかわりや資料を通して学ぶ機会はあるが、未だ理解には乏しいかもしれない。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時の不安や疑問等、ご家族の表情を見ながら言い出しにくいことでもこちらから説明を行い、理解し納得して頂けるよう時間をかけて話をしている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>今年は「利用者の声を聴く」をコンセプトに意見箱を設置し、ちょっとした意見や要望をメモに書き留め、その要望の実現に向けて職員や家族も交えて反映できるよう実践をしている。</p>		
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者とは各ユニットでの会議や毎日の申し送り時に出た意見をタイムリーに伝えたり、全体会議や主任会議の場で代表者には職員の見解をもとにアドバイスを頂いている。</p>		

12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>やりがいとして、法人を挙げての夏祭りの後に慰労会を設けてもらい次回への活力を頂いた。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>今年度より併設事業所との間でプロジェクトチームを立ち上げたり、研修を自発的に企画、開催するなど、自主性が生まれてきた。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>今年度より市GH協議会のブロック内の研修会は各事業所が担当となり、テーマを決め学び合う取り組みを始めた。事業所同士の交流も含め、互いに良い刺激となっている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ホームで安心して過ごして頂くために、事前の面談やサービス担当者等の情報より本人の生活の様子を把握し、職員が本人に受け入れてもらえるよう関係作りに努めている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>本人の思いは勿論のこと、家族からもこれまでの経緯や要望等について話を聞き、ホームの持つ機能をきちんと伝えつつ、その実現に取り組みながら関係を築いている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>例えば入居前にデイケアを利用していただいていた方が定期的にデイへ出向き、今まで通りの交流ができるように併設事業所の協力を受けながらをしている。</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者の方を要介護者として見るのではなく、人生の先輩に対し感謝の気持ちを持って接している。入居者と職員は互いに協力し支え合う関係作りを大切にしている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>平穏な生活には家族の協力が不可欠で、その絆によって支えられていることを職員は理解している。同じ目線でケアができるよう家族とのコミュニケーションを大切にしている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>行きつけの美容室の利用、愛用の化粧品を古くから付き合いのある知人から購入したり、入居前に利用していたデイのフロアでリハビリをしたりとなじみの関係が続いている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者間の共通の趣味、または性格などを職員が把握した上で食卓の座席を配慮している。入居者同士で共通の話題で話が盛り上がることもあり、互いに支え合う関係が出来ていると思う。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入居者の家族にホームの行事を案内したり、一周忌などの節目には事前に連絡して了解を得た上で自宅へ伺うなどして関係を保つようにしている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>「入居者の思いや願いの実現に向け支援していく」の目標をもとに「入居者の願い箱」を設置した。会話の中で知り得たことをメモに書き留め、その実現に向けて取り組んでいる。</p>		

24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>事前訪問で得られた情報でこれまでの本人の生活の様子を把握したり、家族や本人から直接話を伺うなどして、本人への理解につながっていると思う。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>生活場面の中で本人の言動や生活のリズム、動作能力や介助を要する部分を把握し、その都度気付きがあれば職員で情報を共有しながら対応している。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>家族には面会時に意見を伺い、全職員からはカンファ前に検討用紙に必要事項を書き出してもらおう。課題の内容によっては他職種にもカンファに出席してもらい介護計画にも反映させている。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>業務日誌や個別記録に日々の生活の様子等を記入することで情報を共有し、ケアプランチェック表で状況把握を行い、現状に即したサービスを提供している。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>入居者の状態の変化やその時々々のニーズに対して併設事業所のPTやOTから介護法や食事姿勢の保持の仕方など指導を受けたり、また献立面では母体医院の管理栄養士からアドバイスをもらうなど柔軟な連携対応をしている。</p>		

29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>学生の職場体験、ボランティア、実習、地域の方々による踊りや歌の披露などを通して、普段の生活では見られない入居者の楽しそうな表情が見られたりする。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は母体医院にされている方が殆どで、緊急時にも素早く適切に対応することができ家族の安心も得られている。また他の専門医への受診にも柔軟に対応している。</p>		
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>入居者の状態に変化があればGHの看護師、または医院の看護師に報告し指示を仰ぎ速やかに対応する。医院の看護師とは、申し送りノートを通して情報を共有している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>母体の村上医院と入院先の病院で共有された情報はホームにも判りやすく伝達され、入院先のMSWとも連携を取りながら退院に向けた準備を早期に行っている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族との話し合いを早急に設け、医師、看護師長、家族、職員同席にて協議をする。ホームとしてできることや今後の方針について十分話し合い、本人も家族も悔いの無い支援を行えるよう努力をしている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署から心肺蘇生法の直接指導を受けたり、事故発生時の対応はマニュアルの他、事例を検証し対策を講じる過程で職員が学習して実践力を身に付けている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に行う訓練は昼夜それぞれを想定したもので、消防署にも指導を受けながら初動、連携の手順を学習している。地域住民には会合や運営推進会議を通して理解を求めている。</p>		

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの気持ちを尊重して言葉かけにも気を付けている。入居者の話を傾聴し思いを受け止めた上で対応をする。もし他の入居者が別の方に悪口を言われても、双方に対するフォローを意識した声掛けをしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らうまく表現ができにくい方々の思いを限りなく読み取り実現ができるよう、個々の状態に応じて本人がその思いを表出できるように、判り易く答え易いように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	主役は入居者であることを念頭に、趣味や食事の時間、レクリエーションの参加など、本人の希望や意向を尊重して個別に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の衣装や身なりを入居者同士が互いに褒め合う光景が日常的にあり、職員も入居者の身だしなみやおしゃれに常に意識して関わっている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分で食べて頂くために食事形態を工夫したり、苦手なおかずの時は代替食を提供している。準備や片付けも、その方の能力や関心度に応じてお手伝いをしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に毎食の摂取量、飲水量の確認を生活チェック表に記入し、健康状態の一つの目安として把握している。必要に応じて母体医院の管理栄養士からアドバイスを受けている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で可能な方は本人に任せているが、自力で出来ない方には声掛けや介助をしながら口腔内の清潔を保っている。		

43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>介助を要する方も自立している方にも声掛けをしたり、また知らせてもらったりして個々の排泄パターンを見つけ出し、自力での排泄につながるよう支援をしている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘気味の方には腹部マッサージを行ったりホットパックを使用することもある。週3回はおやつに寒天を提供したりパン食の時はヨーグルトや牛乳などを調整している。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴を楽しめるように入浴剤を本人に選んでもらったり、本人のペースで気持ち良く入浴して頂けるよう配慮している。個々の状態に応じた安全な対応に努めている。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>フロアーで過ごされている時でも傾眠されることもあるので、クッションなどの当て方にも配慮している。必要に応じて自室で休んで頂くよう促すなど配慮をしている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の効果は薬紙で確認し、服薬については誤薬の防止のために薬の数、いつ飲む薬かなどを確認し、服用してもらったまでの2重3重のチェックを確実にしている。</p>		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>管理者が実施する音楽療法では歌を通して昔話が弾んだり、食事の下ごしらえでは入居者の味覚を頼りにしたり、お盆拭きやテレビ・新聞を見るなど個々の楽しみ方を考えている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>希望がかなえられるよう家族に相談したり、職員間で話し合い日程を調整したり、併設事業所とも協力を得たりと柔軟に対応している。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自身でお金を所持している方は、少額でも持っていることで安心される。本人が判りやすく楽しく商品を選んでお金を使えるよう支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話を取次ぐ際は、状況に応じて職員が内容をお聞きすることもあり、直後に本人に判りやすく伝達をしている。手紙が来たら拡大し読み易くしてお渡しすることもある。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じた壁面や、歌詞などを貼り出し四季を感じ取って頂けるような演出を心がけている。また天窓からは自然の光が差し込み時間の流れを感じ取ることができる。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>エレベーターホールやソファ、畳の間、食卓コーナーなど3階のフロア以外にも併設のデイフロアや玄関前のベンチなど、自ら選んでくつろいだり、職員がきっかけを作ってお誘いしたりしている。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドを置く方向一つにしても本人の特性を考え、家具やテレビを置く場所と動作傾向の関連性も考慮しながら、安全で本人にとって使い勝手の良い空間作りを心がけている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	例えば移乗バーやベッドサイドレールの位置も個々の状態に応じた場所に配置され、自身の持つ力を最大限活かせるよう個別の環境作りを行っている。		

アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3. たまに
		4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3. あまり増えていない
		4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない